平成30年度　エネルギー関連施設見学会

一般の部　10月6日（土）～10月8日（月・祝）

【広報・調査等交付金事業】

10月6日から8日にかけて、エネルギー関連施設見学会（一般の部）を行い、幌延町在住の17名の方が参加しました。

２泊３日の日程で幌延深地層研究センター、茨城県東海村の核燃料サイクル工学研究所、つくば市の地質標本館などを見学しました。

幌延町での深地層の研究や東海村で行われている研究開発についての説明を受け、エネルギーに関する知識の向上が図られました。

核燃料サイクル工学研究所では、厳重なセキュリティーチェックを受けた後に、地層処分基盤研究を行うエントリーなどの研究施設を見学することができ、貴重な体験をすることができました。

診療所だより

診療所長：田川 豊秋

ノーベル賞

今年のノーベル医学生理学賞は本庶佑先生が受賞しました。その受賞理由はオプジーボというがん治療薬につながる研究に対してで、オプジーボは従来の抗がん剤の仕組みと異なり、本来人体が持っている免疫の機能に働きかける点で画期的とされています。私のような古いタイプの外科医は「がん」と聞くとすぐに手術で摘出する事を考えてしまいますが、現在のがん治療は薬物（抗がん剤）や放射線照射に手術を組み合わせた集学的なものが主流となっています。オプジーボは確かにこの「３本の矢」に新たに加わった武器と言えますが、過度の期待は危険です。死因第１位の肺がん患者さんにオプジーボが効果を認めるのは３割弱に留まると言われますし、重篤な副作用を生じる恐れもあります。また新薬開発には膨大な開発費が必要とされるため、高い薬価という経済的な問題もあります。

決して「夢の万能薬」ではない事を冷静に見極めながら治療に用いるべきです。

同様の事がそろそろ流行の兆しを見せ始めたインフルエンザにも言えます。抗インフルエンザ薬も開発が進み、１日２回５日間服用するタイプ（この薬が登場した時も大きな話題となりましたが）だけではなく、１回だけ吸入すればよいものがここ数年主流となり、今シーズンからは１回だけ服用する経口薬が本格的に普及すると考えられます。患者さんにとって服薬の回数や手間が減るのは良い事です。ただ薬価は従前の薬と大きな差はなさそうですし、副作用もゼロという訳でもなさそうです。

インフルエンザの治療は抗ウイルス薬だけに頼るのではなく、安静や水分・栄養補給そして何よりも予防が大切な事は、どんな新薬が開発されようとも変わりません。

巷に溢れるセンセーショナルな情報に惑わされないようにご注意くださいね！